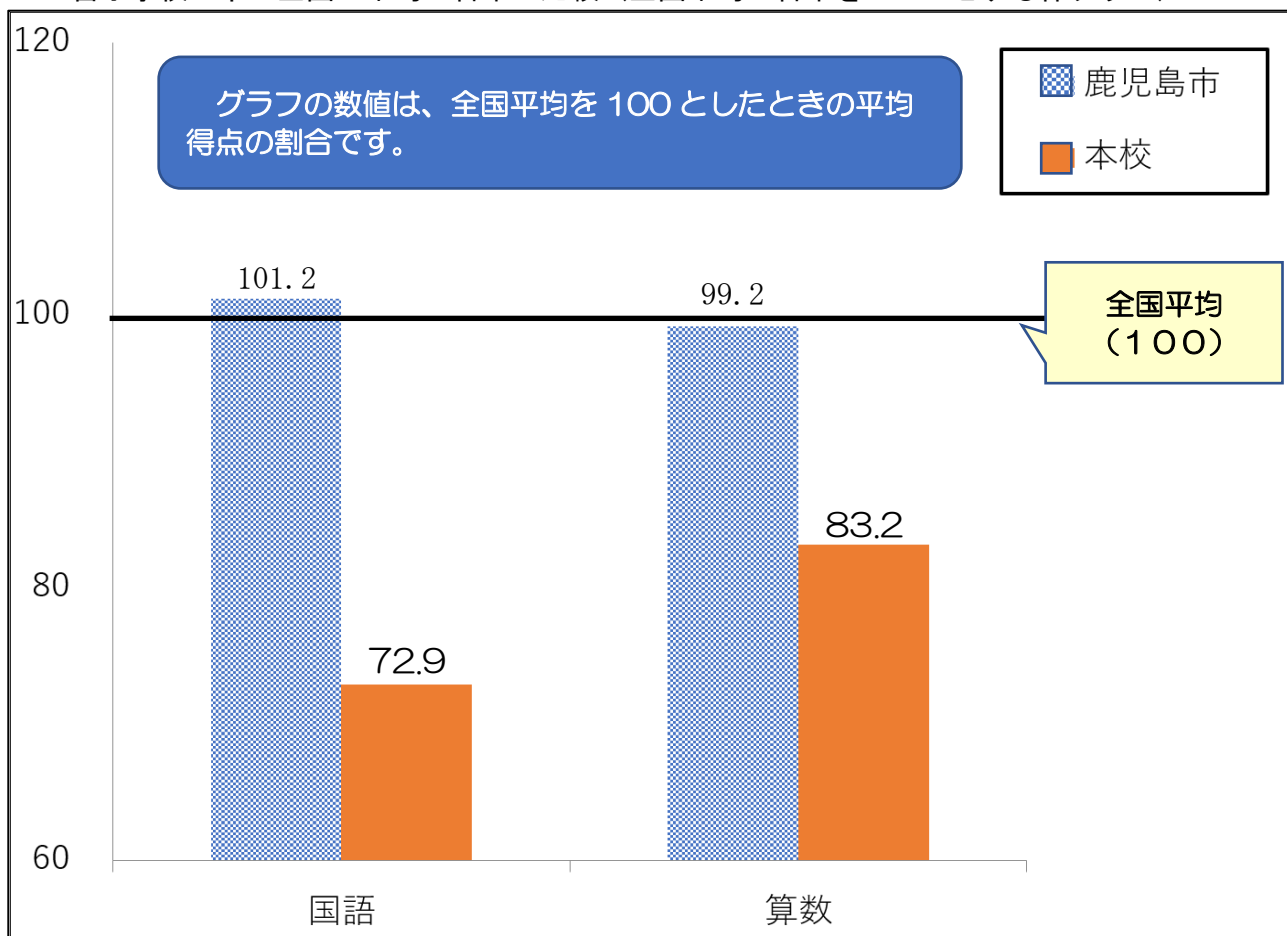


1 宮小学校・市・全国の平均正答率の比較（全国平均正答率を100とする棒グラフ）



2 宮小学校の課題とその解決策（今後の取組）

(1) 学力調査の結果から

【国語】

- ・ 全国の平均正答率（学力調査の結果を100点満点に換算した場合の平均得点の割合）と比較すると、本校の平均正答率は、低い状況であることが分かりました（本校49%、全国67.2%）。
- ・ 特に、自分の考えや意見を条件に合わせて書きまとめる問題では平均正答率が低く（本校30.3%、全国51%）、平均無答率（無解答者の割合）が高い傾向が見られました（本校36.4%、全国10%）。

【算数】

- ・ 全国の平均正答率と比較すると、本校の結果は、低い状況であることが分かりました（本校52%、全国62.5%）。
- ・ 特に、自分で考えた解き方などを、順序良く書きまとめたり、なぜそう考えたのかを説明したりする問題では、平均正答率が低く（本校31.8%、全国47.3%）、平均無答率が高い傾向が見られました（本校13.6%、全国6.3%）。



条件に応じて自分の考えや解き方を書きまとめたり、なぜそう考えるのかを説明したりする力の育成が各教科共通の課題だということが分かりました。

(2) 学習状況調査（アンケート）の結果から

以下の質問においては、「している」と回答した割合が低かったです。

- ・ 考えが伝わるように工夫して発表する（本校 16%、全国 24%）。
- ・ 課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む（本校 8%、全国 30%）。
- ・ 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりする（本校 16%、全国 38%）。



課題の解決に進んで取り組み、考えを友達と伝え合いながら深めたり広げたりする学び方と、相手に分かりやすく伝える方法の習得が課題であることが分かりました。

(3) 課題に対する改善策

ア 授業の在り方を次のように改善します。

- 子供が自分の力で問題の解決方法を考え、友達と話し合い、自分の考えを深めたり広げたりできるように、子供が進んで学習に取り組む「子供が主語の授業」を全ての学習で行います。
- 子供が主語の授業を学力向上につなげるために、「この学習で何ができるようになるか」を見通す場と「この学習で何ができるようになったか」を振り返る場を授業に位置付けます。
- 全ての授業で、自分の考えを書きまとめる活動と、考えを伝え合う活動を位置付けます。
- 自分の考えを相手に分かりやすく伝える方法として「三角ロジック」を取り入れ、毎時間の自分の考えを書きまとめる活動や友達と考えを伝え合う活動で活用させます。
- 一人一人の学びの状況に応じた授業が展開できるように、少人数指導や習熟度別学習を積極的に取り入れていきます。
- 練習問題に取り組む場では、一人一人に応じた問題を選択して取り組むことができるように、タブレットPCのデジタルドリルを積極的に活用させます。

イ 家庭学習の在り方を次のように改善します。ご理解とご協力をお願いいたします。

- 「音読は、必ずおうちの方の前で」を徹底させてください。伝える相手が目の前にいることで、子供たちは「分かるように伝えたい」という気持ちを働かせます。学校でも家庭でも、相手意識を働かせることで、声に出すだけの音読が、相手に分かりやすく伝えるための音読になります。ちょっとしたことの積み重ねが、大きな成長につながります。
- 学年段階に応じて三角ロジックの練習を兼ねた「課題日記」を書かせます。よいものは、学級週報や学校便りでも紹介します。どのように書けば、相手が「なるほど」と思ってくれるのか。その書き方が身に付けば、相手を説得する話し方も上達します。みなさんは、週報や学校便りに掲載された作文をお子さまと一緒にご覧になりながら、そのよさについて話し合ってください。また、お子さまが掲載されたときは思いっきりほめてあげてください。
- 毎週月曜日と水曜日にタブレットPCを持ち帰らせています。目的は自分に合った課題を自分で見付け、自分の計画に沿って取り組む力を家庭学習においても育てるためです。デジタルドリルから自分に合った内容を見付けて解いたり、調べ学習をしたりするなど、タブレットPCのよさを生かしながら一人一人が異なる課題に取り組みます。各家庭では「今日は何を頑張るの（頑張ったの）」、「どうしてこの学習に決めたの」などという声掛けをお願いします。